

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/04/11号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

円建てゴールド再び歴史的な高値更新

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



前週も「円建てゴールドは将来歴史的な高値を更新する可能性が高いと書きましたが、一週間もしないうちにそれは現実のものとなりました。金曜日につけた7796円は先週つけた歴史的な高値7732円を大きく更新、7800円が目前です。今年は8000円も十分あり得ると以前に書きましたが、逆に8000円では止まりそうにないような雰囲気になってきました。ドル建てゴールドはこのところの狭いレンジであった1920ドル近辺から上昇、1940ドル台後半にまで上昇しました。注目すべきは米長期金利の上昇がとまらず、金曜日には2.7%を超えて一週間が終わったということです。これだけの金利の急騰にも拘わらずゴールドは下落するどころか逆に上昇しており、インフレへの投資家の警戒感がより一層強くなっているということができるといえるでしょう。今週火曜日12日の21時半に発表される米CPI（消費者物価指数）に大きな注目が集まります。先月発表された2月のCPIは7.9%という40年ぶりの高い数字でしたが、12日に発表される3月のCPIはマーケットでの予想は8.4%というさらに高い数字が出ています。FRBのさらなる金利上げはもはや待たなしの状況になるでしょう。ウクライナ情勢はいまだ混迷状態にあります。マーケットはほぼその地政学リスクプレミアムを洗い流してしまったと言ってもよいでしょう。ロシアルーブルは、ウクライナ侵攻とともに、77ルーブルから一時1ドル139ルーブルまで暴落しましたが、現在は、進行前のレベルまで戻し、原油も同じく侵攻後の急騰分を全部削ってそれ以前のレベルまで下げています。今後はより「インフレ」へとマーケットの視点は移っていくものと思われます。そう考えるとゴールドはまだまだ堅調に、そして円建てゴールドは特にまだまだ高値を追うことになるでしょう。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

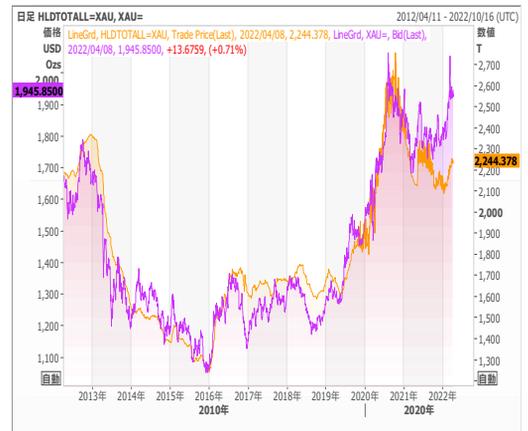
【マーケット・トピック】

ゴールド以外の貴金属-シルバー

貴金属という括りには、ゴールド以外にシルバー（銀）とPGM（白金族）があります。PGMとはプラチナの仲間、プラチナ、パラジウム、ロジウム、イリジウム、ルテニウム、オスミウムの6メタルのことで、貴金属とはこの8つのメタルのことです。しかし、この8つのメタルの中で市場性があるのは、パラジウムまでの4つで、それ以下のPGMには投資家が自由に取引できる市場は存在せず、基本的には生産者と需要家との間の直接の取引となっています。今週からはゴールド以外の市場性のある貴金属、つまりはシルバー、プラチナ、パラジウムの説明をしていきます。

「シルバーの歴史」

シルバーと人間の付き合いもゴールドに負けず劣らず古いもので紀元前3000年には人間の生活に登場していたと言われます。ただ古代では、シルバーの方がゴールドよりも希少価値が高いものだったと考えられています。それはゴールドが「自然金（Nugget）」の形で出てくるのに対してシルバーはあまりシルバーの形では自然には出てこず、その本格的な採取は精錬技術の発達を待たなければならず、長い間希少価値としてはシルバーの方が高かったからです。ただ人類が精錬技術を開発してからは、その絶対的な資源量、そして物質的特性から現在のようなゴールドとシルバーとの価値関係になったものと思われます。特に17世紀以降は新大陸で大量のシルバーが発見され、また銅鉱石からのシルバー抽出、それを可能にした新しい精錬技術の発展により、シルバーの生産量は飛躍的に伸び、ゴールドに対するシルバーの価値は大きく下がりました。近代ではゴールドの120分の1から30分の1、過去50年の平均は約60分の1という、過去の長い歴史的観点からもシルバーは最も割安なレベルにあると言えます。この価格の関係に関しては後ほど、需給や市場の項で触れたいと思います。ゴールドと並んで貴金属であるシルバーは、古くから決済手段として使われ、特に17世紀以降大量のシルバーの供給が可能になると世界でも主要な貿易通貨として利用されるようになりました。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

